

災害の記憶は、しだいに風化してしまう 今、話し合うことから始めよう いつか来る大規模災害に屈しないために

地域防災訓練 12月6日回

想定：東海地震クラスの大地震発生

自主防災会を中心とした地震発生後の避難、消火、救護など一連の対応訓練を実施します。それぞれの地域特性を考慮した訓練により、防災活動・意識を高めることが目標です。

大きな災害の発生時には、家屋や道路の被害のほかに、人的被害も発生すると予想されています。火災の危険や、ガス漏れ、電気・水道・電話が使えなくなることも考えられます。公的な防災機関は需要が一気に高まり、各地への到着が遅れるかもしれません。

地域防災訓練は、防災に関する知識・技術・心得などをみんなで学ぶ場。皆さんぜひ、地域の防災訓練に参加してください。

総務課地域支援室 ☎ (56) 2220

うか。すでに災害があつたことをすら忘れつつあるのではないだろうか。

家族防災会議を取材した横山さん一家。勝次さんの言葉にもそのことが感じられた。「災害は忘れたころにやつてくるって言いますよね。あれは本当なんだなあと実感します。地震直後は危機感がありましたから、家で対策をしようと考えていましたが、日が経つにつれ、その気持ちも薄らいできました。今回の家族会議は一つのきっかけ。あらためて、家族みんなで備えをしていこうと思います」。

局地的な豪雨や突然の地震。予測がつかない大自然の猛威を前にして、人は何ができるのだろうか。過去の教訓の数々は、そのとき住民には為すすべがないという現実を突

きつけていた。

大規模災害時、救援の手が届くまでには相当の時間がかかる。そのときになつて「温かい食事が避難所に届かない」「給水車がさっぱりやつてこない」などと言つても遅い。今こそ備えを始めたい。愛する人を、愛するわが家を、愛する古里を守るために。災害に屈することなく、立ち向かうために。

「守られる防災」から「自ら守る防災」へ。この特集をきっかけに家族で、地域で話し合うことを始めよう。あのとき味わつた恐怖を、これからすべき準備を。わたしたちは学んだはずだ。住民一人一人の「忘災対策」こそが、大規模災害に屈しないための最大の備えとなることを。

練と催しの同時開催は、参加者の負担軽減を狙ったもの。おかげさまで、多くの地区住民が参加してくれました。本当にありがとうございました」。

一人でも多くの人に参加してほしい、楽しみながら防災意識を高めたいという主催者側の努力と工夫が垣間見える、坂京ならではの訓練だった。

* * *

8月11日の明け方、本町を襲った地震。今まで体験した

すつと続くと思っていた。
そう、今年までは、
大型台風に直撃されたら、
ひとたまりもないことを思い
知らされた。大規模地震もい
つか必ず襲ってくると十分予
感できた。そのときこの町は
大きな大きな打撃を受けるの
だろうと容易に想像できた。
しかし、地震が発生して3
ヶ月が過ぎ、台風18号の到来
から2ヶ月が経とうとしてい
る今、住民の意識はどうだろ

昨年、坂京区で実施された防災訓練にお邪魔した。この訓練では、地域の催し「お宝コンテスト」も同時開催。訓練・催しを企画した千澤利通さんに、その意図を聞いた。

「地区内の人口減少・高齢化が進み、こういった地域の行事や防災訓練への参加が、皆さん難しくなっています。主催する側としては、少しでも皆さんのが参加しやすいよう工夫しないといけません。訓

かできなかつた。そして本町の道路網に多くの被害を残した台風18号。現場を取材してそのひどい有様に呆然とした今まで本町は、「災害に強いまち」だと思っていた。毎年のように日本に上陸する台風は何ごともなく本町を通り過ぎ、たいした被害を残すこともなかつた。東海地震もいつか来ると言われ続けて早30年が過ぎた。なんの不安も心配がないま、平和な日常が

取材を終えて

epilogue

「忘災」への対策

とのない
どの揺れに、
たしはただ怯え、

千澤利通さん (坂京) としみち